

令和元年

委託事業所における労働災害発生状況

当協会に労働保険事務を委託している事業所における、平成31年1月～令和元年12月までの労働災害の発生状況がまとまりました。

全体の発生件数は67件であり、その内、業務災害は67件（うち特別加入者5件）、通勤災害は0件でした。前年比でみると4件の増加となりましたので、各事業所においては安全管理に関してなお一層のご努力をお願いしたいと思います。

増加の背景としては、労働者の高齢化に伴う筋力の低下、反射神経、運動神経などの衰えが影響していると考えられます。

以下、災害の内容について分析した結果は、図1～図6のとおりです。

- ① 業種別発生件数では、商業・サービス業が20件（29.8%）と全体の3分の1弱を占め、次いで製造業18件、建設業11件、運輸業6件の順で多く発生しています。商業・サービス業が前年に引続き1位で、第3次産業での災害多発傾向が続いています。
- ② 建設・運輸・林業などの屋外型産業では、墜落・転落、激突・飛び降りや飛来・落下による災害が目立ちました。特に、トラックの荷台やステップなどからの転落事故が多く見受けられたほか、ハチ刺され事故も多発しました。
- ③ 製造業では、機械・金属製品製造業5件、化学工業5件という状況になっています。動力機械（コンベアや旋盤など）に巻き込まれる事故、帯鋸やボール盤などに接触しての切

れ・こすれ災害も多く発生しています。

- ④ 年代別では、労働力の高齢化が進んでいる結果、50歳代以上の件数が23件と全体の34.1%を占めており、筋力や反射神経の低下を考慮した作業方法を工夫するほかに、腰痛予防のために重量物を取り扱う際に台の高さを調整するなどの負担軽減策を講ずる必要があります。
- ⑤ 災害の規模をみると、災害全体に占める休業4日以上災害の割合は、令和元年は46.3%で、前年より2.9%減少しました。
- ⑥ 昨年も医療現場での針刺し事故が2件発生しており、感染症の発生が危惧される事故であることから注射器や注射針の扱いに十分気を配りたいものです。

災害の概略は以上ですが、冬場の災害（12～1月）が17件と増加していることから、凍結通路や段差の解消、滑りにくい靴の着用などの対策が必要と考えられます。ご安全に！

